

## 【研究概要】

長径 10mm から 20mm までの大腸広基性粘膜内病変の内視鏡切除後の局所遺残割合を、Underwater EMR が従来法 EMR に比べて減少させることができるかどうかを検証する。同意を得た後に Underwater EMR 群と従来法 EMR 群に一对一で割り付ける。割付調整因子は機関ごとおよび腫瘍長径 ( $\geq 15\text{mm}$  と  $< 15\text{mm}$ ) とする。割り付けられた方法にて病変を切除した後、一年後にフォローアップの下部内視鏡を施行し、治療後遺残再発の有無を確認する。